



Weは英語で「わたしたち」という意味。男女共同参画を「わたしたちみんなで考え、みんなで進めていきたい」と願って名付けました。

安心して仕事に
励むことができます

夫婦共働きの核家族世帯に暮らす浅沼充志さんは、精神保健福祉士として独立行政法人国立病院機構花巻病院に勤めています。同病院では保育サービスとして「みつば保育園」を併設。浅沼さんはこの保育園に3歳の長女を預けています。朝は子どもと一緒に家を出て、保育園に預けてから出勤。仕事を終えたその足で迎えに行き、一緒に帰宅するという毎日です。時には仕事で遅くなることもあり、保育士が、保育園が勤め先のそばにあるため、すぐに迎えに行くことができます。また、病院の事情は保育士



勤め先の保育サービスを利用している浅沼充志さん

も分かっているため、柔軟に対応してもらえそうです。「子どもの具合が悪くなった時などは、『職場から近い』というメリットを実感しますね。安心して仕事に励むことができます」と、保育園の存在に感謝しています。

仕事と子育ての
両立を目指して

病院によると、保育園は若い看護師が結婚や出産後も仕事を続けるために必要な施設との判断で、開設したということです。職場の近くに子どもを預けられる場所があることにより、子育てをしながら安心して働くことができます。例えば、子どもが体調を崩したときや、薬を飲ませる必要があるとき、また女性職員の場合は授乳などの対応がしやすい、といったメリットがあります。また、職員の安定した雇用にも結びついているそうです。

「子育てをしながら安心して働ける」ということは、働く側と雇う側の双方にプラスになります。職場の子育て支援は、費用などの面で難しい場合もありますが、今後

花巻病院併設
みつば保育園

平日に加え、土曜・祝祭日も受け入れを行っているみつば保育園では現在、花巻病院に勤務する15人の職員が利用しています。預かり時間は、職員の勤務時間に応じて調整ができます。



砂場で遊ぶ、みつば保育園の園児たち。「お父さん、お母さん、お仕事がんばってね」

このような支援が増えてくれば、より仕事と子育てを両立しやすくなることでしょう。そして、この両立が実現すれば、これまで仕事優先になりがちだった男性も、育児に参加しやすくなるのではないのでしょうか。

まちの中の
いい話

50代から80代の会員14名で活動している「東和男の楽しい料理教室OB会」会長の朝倉戴治さんに、その活動についてお話を聞きました。



「東和男の楽しい料理教室OB会」会長の朝倉戴治さん

地域での活動に幅を広げる「東和男の楽しい料理教室OB会」

OB会が誕生したいきざつを教えてください。

朝倉さん 合併前のことで、当時の花巻市で「男の料理教室」が開催されていると聞き、ぜひ東和町でも開催してほしいと思い、役場の担当者に働きかけを実現しました。教室では、実習前に保健指導があり、血圧や体脂肪を測定します。以前はカロリーや塩分な

どは気にしていませんでした。が、保健指導によって栄養や健康管理に気を付けるようになり、また、最初のころは会員のほとんどが薄味の料理に慣れませんでした。今年ではほとんど気にならなくなりました。一年間の教室を終えて、「これで終わりではもったいない。料理が楽しくなったので、今後も続けたい」とOB有志で役場の担当者に相談したところ、こちらの熱意が伝わり、OB会が誕生しました。

OB会の活動内容や、活動を通して良かったことなどを教えてください。

朝倉さん 定期的な活動として年に6回ほど料理実習をします。おかずづくりやそば打ち、小正月や花見の時期などには、季節の料理にも挑戦しています。会員からは、「今まで台所に立ったことがなかったが、皿洗いをするようになった」「料理実習で覚えた巻き寿司が得意になった」「おやつを作って、孫においしいと喜ばれた」という声もあります。



出来上がった巻き寿司を披露する会員

以前は、「料理は女性がするもの」という意識を持っていた会員もいましたが、そのような意識が少しずつ変化し、料理づくりに積極的になったようです。

OB会の今後の活動や抱負について教えてください。

朝倉さん デイサービス施設の利用者と昼食会をしたり、地域子育て支援センターで料理をしながら親子と交流したり、「健康まつりin東和」に出店したりするなど、地域で活動する機会が増えてきました。これからも、学んだ知識や経験を生かし、「男の料理」で、皆さんに喜んでもらえるような活動を続けていきたいです。



「はなまるカレッジ！」の様子。受講者同士が打ち解けやすいように、いすを丸く並べて行われました

「はなまるカレッジ！」開催

市は8月5日と19日の2回にわたり、まなび学園で「はなまるカレッジ！まなびコース」を開催。参加した皆さんは、聴く力話す力を伸ばす方法を学びました。10月には「まなびコース」を発売させた「チャレンジコース」を開催する予定です。詳しくは、今後の「広報はなまき」でお知らせします。

編集サポーター(敬称略)

小原康子、菅原重子、高橋奏恵、藤根悦子、藤本眞津子、吉田幹子

問い合わせ

本庁市民協働参画課
(☎24・21111内線457)